

# 長旅、おつかれさまでした!

北村 豊

私の診療所の林の中を澄んだ水の小川が流れているため、鳥たちも飲水や水浴によく訪れてくれる。地下水のため、年中十数度の一定温度で、冬は鳥にも暖かく、夏には冷たくて訪問してくれるこれらの内温性動物にとっても快適な水なのだから、

うと勝手に思いながら、鳥たちの水浴シーン“を診療室内の格子窓より、私はピーピングトムとなって時々のもぞいているが、幸いにもおとがめはない。

スズメは通年やって来るが、秋になってリングを栗の枝に刺したりするといろんな鳥がやってきて美味しそうにリングをついばんでいってくれる。より近く、その愛らしい姿を待合室の患者さんにも見てもらおうと二台の双眼鏡を置いてあるが、鳥を拡大して見た患者さんは、診療室で間近に見た自然の感動を話題にされることも度々あり、それを聞く度に私は幸せな気持ちにしていただいてい

用。用のリング集めを始めるが、近年では多くの方から、鳥用のリング“を沢山いただき、助けていただいている。寒さが厳しくなるにつれ、当院の庭は訪問客の各種の小鳥で賑わい、とくに大雪の翌日は「注文の多い料理店」と化し、職員はリングの給餌に大忙しとなる。

時期により訪れる鳥も変化していくが、私が毎年、会えるのを特に楽しみにしている鳥がいる。それは、渡り鳥のコムクドリで、体長19cm位の夏鳥である。集団でねぐらを樹につくって糞害や鳴き声で嫌われやすい留鳥のムクドリと同属ではあるが、コムクドリは、春爛漫の4月中旬頃に庭に訪問するようになり、6月上旬に見られなくなる。それは、6月以降も十分なリングを確保するのが困難であるからで、別れの時はやってくる。

私がこのコムクドリを待ち望むのには、主として二つの理由がある。一つは、このコムクドリは熱帯のマレーシア（ボルネオ島北部）やフィリピンから、小柄な体で渡ってくることである。マレーシアは私が青年時代の3年間をジャングルの国立病院で過ごした所であり、この国のポルネオ島のコタキナバルから小布施まで渡ってきたとしたら、なんと4093kmもの長距離を滑空性能の悪い翼で飛ばしてきたことになる。おそらくフィリピンの島々や台湾、そして南西諸島を経

て、本州中部以北に分布していくのだから。もう一つの理由は、コムクドリは、鳥では少ない雌雄異色の羽毛を有する種であり、雄は艶やかな黒を中心とした翼をもつが、見る角度によって小羽枝の表面のケラチン層によって起こるとされる構造色で、緑色や青色があった。シックな品のある美しさ“に魅了されている。

今年コムクドリは見られなくなってしまうが、来春の再会が待ち遠しい。  
（下高井郡小布施町・信州口腔外科インプラントセンター）